

ASEAN との協力強化に向けた日本の提案  
地域の食料安全保障を確保するための  
強靱で持続可能な農業及び食料システムの強化に向けて  
(日 ASEAN みどり協力プラン)

## 1. 背景

2021年、国連（UN）食料システムプレサミットが7月にローマで、そのサミットが9月にニューヨークで開催された。このサミットは、食料の安定供給と強靱で持続可能な農業開発の重要性が認識されつつある中で開催されたものである。温室効果ガス（GHG）排出量を削減しつつ、農業と食料システムの強靱性と持続可能性を高めるという概念は、農業政策や政府のイニシアティブの中核的な概念として位置づけられるとともに、プレサミットやサミットでは一部の ASEAN 加盟国（以下「AMS」という。）を含む多くの国からも表明されている。2021年7月のプレサミットに際しては、複数の AMS と日本の農業担当大臣により「持続可能な農業生産及び食料システムに関する共同文書」（以下「共同文書」という。）が合意・発表された。

共同文書では、アジア・モンスーン地域に地理的に位置する国々は、農業生産の面で、高温多湿、豊富な水田、中小規模農家の割合の高さといった地域の特殊性を共有していることが確認された。このような地域の特性を考慮した上で、強靱で持続可能な農業及び食料システム、そして SDGs の目標を達成するためには、これら目標に至るための万能(one-size-fits-all)な解決策はないことが認識された。一部の AMS と日本が合意したこの重要な概念は、2021年9月23日に発表された「国連食料システムサミット：事務総長による議長サマリーおよび行動宣言」に明確に反映された。

さらに、共同文書では、革新的で持続可能な農業の実践と技術の導入には国際協力が重要であることが指摘された。生産性と環境保護のバランスを達成するために、共同研究プロジェクトや既存の枠組みを通じた協力を促進し強化させるべきことが合意された。

日本の ASEAN との協力強化に向けた取組は、この基本的な考え方を増大・強化する方向で進められる。

## 2. 協力の方向性

ASEAN は、地域の食料安全保障と低排出農産物を確保するための取り組みの地域全体を包括するものとして、「ASEAN 統合食料安全保障（AIFS）フレームワーク、ASEAN 地域の食料安全保障に関する戦略的行動計画（SPA-FS）2021-2025 及び農業地域と農村開発のための持続可能なバイオマスエネルギーに関する ASEAN 戦略 2021-2030」を掲げている。2020年10月の ASEAN 農林大臣会合（以下「AMAF」という。）で採択された AIFS フレームワークと SPA-FS, 2021-2025 は、食料安全保障における新たな課題として、気候変動に対する強靱力の強化、持続可能な農業

生産と生産性の向上を強調した。2022年10月26日にAMAFは「ASEANにおける持続可能な農業のためのASEAN地域ガイドライン」を採択することに同意した。このガイドラインは、生産性が高く、経済的に実行可能で、環境的に健全なASEAN農業への移行へAMSを導くことを目的としている。

日本では、イノベーションを通して食料・農林水産業の生産性と持続可能性の向上を認識するため、2021年5月に中長期戦略である「みどりの食料システム戦略～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～(MeaDRI)」を策定した。現在、イノベーションの推進により、強靱で持続可能な農業及び食料システムの構築、より具体的には食料・農業生産の生産性向上と環境負荷の低減に向けた道筋をつけることが期待されるMeaDRIに位置づけられた関連活動を政府および関係者が強力で推進している。

ASEANと日本のこれら政策・戦略の方向性は、両者が強靱で持続可能な農業・食料システム、特に環境負荷を低減しながら農業生産と生産性を向上させることの重要性を明確に認識していることを表している。

気象条件や農業生産条件が類似しているASEANと日本の協力を促進するためには、新ASEANガイドラインと日本のMeaDRIを食料安全保障強化のための原則的指針・方法として認識することが必要である。この共通認識のもと、日本は、地域の食料安全保障の確保に貢献するため、AMSと緊密に連携し、ASEAN地域における強靱で持続可能な農業及び食料システムを実現するための努力を強化する。また、日本は、民間部門の技術的・財政的能力を活用するため、官民連携のメカニズムを十分に活用していく。

### 3. 協力の範囲

日本は、MeaDRIで示された「イノベーションによる強靱で持続可能な農業と食料システムの構築」を今後の協力の中核概念として、ASEANとの協力を推進する。日本は、高湿度・高温、豊富な水田、中小規模の農家といった共通の地域特性を持つアジア・モンスーンにおいて、強靱で持続可能な農業を実現するために適した技術、必要な技術に焦点を当てASEANと日本の間で協力を実施する。日本が各AMSで重要と考え、取り組むべき具体的な協力の範囲は以下のとおりである。

- i) スマート／デジタル農業、循環型経済、バイオマスエネルギー、温室効果ガス（GHG）排出削減、総合防除（IPM）などのイノベーションにより、強靱で持続可能な農業及び食料システムを構築するための技術の開発、実証、普及
- ii) 強靱で持続可能な農林業・食料システム構築のための人材育成
- iii) ASEANにおける持続可能な農業のためのASEAN地域ガイドラインの実施に向けたその他の支援

現在実施されている日・ASEAN 協力プロジェクトは別添 1、現在協力の対象にはなっていないが、今後開始される予定のプロジェクト分野は、別添 2 のとおりである。プロジェクトの効果的な運営と進捗の透明性を確保するため、各プロジェクトには明確で具体的な成果物と時間枠が設定される予定である。

これらの協力の推進にあたっては、日本は官民連携のメカニズムを十分に活用する。

#### 4. 結論 -日本 ASEAN 友好協力 50 周年に向けて

2023 年に日本 ASEAN 友好協力は 50 周年を迎える。記憶に残る出来事を記念するため、日本は、各 AMS に適した技術に基づく、強靱で持続可能な農業及び食料システムの構築において、ASEAN との協力をさらに強化するためこの良い機会を活用する。

日本は、ASEAN との協力の内容を精緻化し、AMS における日本の技術の実証と普及を促進し、ASEAN の食料安全保障の強化に貢献する。これらの取り組みを通じて、日本は ASEAN との協力関係をさらに強化・深化させ、環境負荷を低減しつつ農業生産性を向上させ、ASEAN の全ての人々にとって安全で安価、多様で栄養価の高い食料へのアクセスを向上させることにより、ASEAN の食料・農業部門の繁栄を目指す。

(別添 1)

i) スマート／デジタル農業、循環型経済、バイオマスエネルギー、温室効果ガス (GHG) 排出削減、総合防除 (IPM) などのイノベーションにより、強靱で持続可能な農業と食料システムを構築するための技術の開発、実証、普及

- ✓ ASEAN ライスネットのための JAIF (日・ASEAN 統合基金) 能力構築プログラム
- ✓ アジアの灌漑稲作システムにおける温室効果ガス削減 (MIRSA)
- ✓ アジア・モンスーン地域における生産能力を向上させ、持続可能な農業と食料システムを確保する農業技術の応用の加速
- ✓ 日本の農林水産省拠出による、土壌の炭素貯留とメタン排出削減のための能力を強化する FAO のプロジェクト
- ✓ 東南アジアにおける持続的な農業及び食料システムの構築に向けた官民連携プロジェクト
- ✓ 東南アジアにおけるスマートアグリパイロットプロジェクト
- ✓ 東南アジア地域持続的漁業推進プロジェクト
- ✓ 東南アジアにおける ASEAN-JICA IUU 漁業対策能力向上プロジェクト
- ✓ JICA 知識共創プログラム：農産物輸出のための植物検疫技術の実践 (果実のハエの駆除のための熱処理技術)
- ✓ アジア太平洋地域における越境的植物病害虫の侵入及び拡散に対する防護のための能力開発
- ✓ 東南アジア大陸における外来性昆虫害虫トマトキバガに対処するための調整改善と能力強化

ii) 強靱で持続可能な農林業及び食料システム構築のための人材育成

- ✓ 日本の林野庁拠出による、木材生産国における持続可能な木材利用の促進に関する ITTO プロジェクト
- ✓ 日本の林野庁及び外務省拠出による、木材生産国における持続可能な森林経営のための能力構築に関する ITTO プロジェクト
- ✓ 持続可能な森林経営に関する JICA 技術協力プロジェクト
- ✓ 東アジア植物品種保護フォーラム
- ✓ 日・ASEAN 連携による GAP 理解度向上推進事業
- ✓ ASEAN 各国におけるフードバリューチェーン構築支援のための農民組織能力向上プロジェクト(CBF プロジェクト)
- ✓ ASEAN 地域の大学との連携による食料関連分野の人材育成プロジェクト（日本）-フェーズ 3

iii) ASEAN における強靱で持続可能な農業及び食料システムのための ASEAN 地域ガイドラインの実施に向けたその他の支援

- ✓ バイオエネルギー及びその副産物を活用した循環型経済の構築に関するプロジェクト
- ✓ 安定した食料システムの構築と灌漑・排水施設に関する気候変動適応策・緩和策の開発
- ✓ ASEAN 地域におけるマングローブ生態系管理
- ✓ 東南アジアにおける水産業からの海洋ゴミ排出のモニタリングと削減のための地域共同研究及び能力開発
- ✓ ASEAN RAI（ASEAN 版責任ある農業投資）ガイドライン実施のための学習・認定プログラムの作成と実証
- ✓ 東南アジア地域におけるポスト COVID-19 社会におけるフードバリューチェーン開発に関するデータ収集調査
- ✓ CLMV 諸国における水利用組織間の農地灌漑管理の開発及び促進に関する優良事例の共有
- ✓ ASEAN 諸国における強靱で持続可能な農業食料システムの構築と強化に関する研究プロジェクト

(別添 2)

1. スマート／デジタル農業、循環型経済、バイオマスエネルギー、温室効果ガス（GHG）排出削減、総合防除（IPM）などのイノベーションにより、強靱で持続可能な農業と食料システムを構築するための技術の開発、実証、普及

- ✓ 気候変動に強い農業及び低炭素食料システムに対する民間部門の関与と投資の増加

- ✓ ASEAN 地域における強靱で持続可能な農業と食料システムのための近代的で地球に優しく清潔な技術に関する情報共有
  - ✓ 収穫後ロス削減と農業機械化のための活動
  - ✓ デジタルと精密農業のための活動
  - ✓ バイオマスエネルギー利用の近代化技術の向上
2. 強靱で持続可能な農林業と食料システム構築のための人材育成
- ✓ ASEAN 地域における食のイノベーション拠点の開発と運用のための活動
3. ASEAN における持続可能な農業と食料システムのための ASEAN 地域ガイドラインの実施に向けたその他の支援
- ✓ ASEAN JICA フードバリューチェーン開発プロジェクト
  - ✓ 強靱で持続可能な農業と食料システム実現のために AMS を支援する民間部門支援のための活動